

科目番号	1302	領域区分	医療栄養学領域	
学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
1・2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	人間栄養学特論 (Human nutrition)			
担当教員名	小城 明子／北島 幸枝／鈴木 礼子			
授業の概要及び到達目標				
<p>疾病の発症には、遺伝要因、環境要因、加齢や生活習慣などが複雑に関連している。ヒトが生命を営み、健康を維持して活力ある生活をおくるためには、適切なエネルギーや栄養素摂取が必要となる。本講義では栄養疫学の研究デザインの基礎知識を学びつつ、エネルギーおよび各種栄養素の代謝および栄養の過剰と欠乏がもたらす影響についてエビデンスをもとに学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養疫学の研究論文の結果を客観的な視点で読みとる力を身につけ、現在、氾濫している「食・栄養の情報」に惑わされず、自身の判断力を養う。 ・ 栄養疫学の研究論文の精読を通して、論文解釈の応用力を養う。 ・ 健常人および疾病の一次予防と重症化予防のための必要栄養量の在り方を理解する。 ・ 栄養摂取および栄養管理と疾病発症・疾病予防との関係を説明できる。 ・ 傷病者における栄養管理の在り方を考察できる。 				
準備学習等				
<p>第1～3回：疫学研究の評価指標（オッズ比、リスク比など）や疫学デザイン（ケースコントロール研究、コホート研究）について調べてレポートを提出する。</p> <p>第4～6回：日本人の食事摂取基準 2015年版を熟読し、理解しておく。予習（3回×1.5時間） 厚生労働省：日本人の食事摂取基準 2015年版 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/syokuji_kijyun.html</p> <p>第10～12回：授業中に英文論文のabstractを読むため、各自の研究テーマ関連の英文論文を利用し、英文に慣れておく。また、第11・12回に先立ち、摂食嚥下障害に関し、事前学習をしておく。（3回×1.5時間）</p>				
成績評価の方法	<p>第1～3回：20点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習レポート 30%、出席状況 30%、小テスト 40% <p>第4～6回、10～12回：40点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席 40%、課題 60% ※第4～6回課題（英文献の検索および要約、プレゼンテーション、討論） <p>第7～9回、13～15回：40点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席 50%、課題（発表、討論） 50% 			

テキスト	<p>第1～3回、第10～12回 ・受講に必要な資料・論文はプリント配布予定。 第4～6回 ・日本人の食事摂取基準 2015年版：菱田 明、佐々木 敏監修，第一出版，2014年（ISBN:978-4-8041-1312-8）</p>
参考図書	<p>第1～3回 ・Epidemiology An Introduction / Kenneth J. Rothman</p>
備考	<p>第4～6回：事前学習、準備として課題を適宜指示する。その課題の要約や関連する研究報告などのプレゼンテーションに基づき、講義はディスカッション形式ですすめる。 第10～12回：事前学習、準備として課題を適宜指示する。授業の中で英文論文の abstract を数編読む。各自、必要に応じて、電子辞書などを用意する。 各教員への質問等は、適宜メールもしくは授業終了後に受け付ける。</p>

授 業 計 画

- 第1回：栄養疫学指標とデザインについて [鈴木]
- 第2回：論文読解（1） [鈴木]
- 第3回：論文読解（2）まとめ [鈴木]
- 第4回：食事摂取基準と疾病予防 [北島]
- 第5回：生活習慣病と栄養素との関連 [北島]
- 第6回：ライフステージ別の栄養管理 [北島]
- 第7～9回：課題発表 [北島]
- 第10回：栄養管理のアウトカム評価 [小城]
- 第11回：摂食嚥下障害とその弊害 [小城]
- 第12回：摂食嚥下障害の栄養管理 [小城]
- 第13～15回：課題発表 [小城]

※順番は変更することがある。